

葉泳会通信 創刊号

発行：千葉大学葉泳会
責任者：理事長 森田恒世

葉泳会に思うこと

葉泳会会長 川口俊治（1967年卒）

母校の学窓は、はや33年の月日の彼方となった。月並みな感慨ではあるが、昨日のこのようでもあり、遠いはるかなことでもある。

短くきらめいた瞬間の10倍の歳月を経ようというのに、あのまぶしい毎日の思い出の一つ一つは、けがれない輝きを失うことなくいまだに秘めた心の宝石となっている。

全てが豊かとはいえなかった私達の大学生活は、父や母の不幸な時代を乗り越えて明るい未来を切り開こうと胸深く誓っていた。時に白い雲を眺めては、辛いことも悲しいことも憧れのなかに消していた、そんな若い男女の日常は、他の時代に相対して最も幸せな青春世代であったといわれている。

房総の太陽をたっぷり浴びて若鮎のように自分が飛び込んだビジネスの世界は、果たしてその後、「今年は厳しい」とか「激動の時代を迎えた」とか毎年のように言いこぞって幾多の曲折を駆け抜けてきた気がする。

しかしながら時代はいまや更に大きなうねりとなって、それまでの同一線上には捉えられない変革の波を隆起させている。

飽熟となった日本の新世紀は我々の活力が支えた生産を必要としなくなり、特にITの進化や環境、資源の保護といった諸々の限界要因によって、これまでとはまったく違う社会を創り出さざるをえない次元に至っている。それは発想や思考ばかりが行動の基準までに従来のパラダイムを転換することを要求している。新しい実務価値を創り出そうとするものとしえないもの、コンピューターをはじめとする新しい社会ツールを手にしたものとしえないものの断層はより鮮明となり、それは一概に年令や仕事やその他の世界によることなく、新しい時代を生きようという意欲の程度によってますます大きな差となってゆくように思える。

「生きる限り」、「生きる」とは、常に「創造する」ことだとすれば、毎年輩出する葉泳の仲間達は、世界中でめぐり合うそれぞれに新しい発見や挑戦を語り合い、青いプールの継泳のように、いつも明るく伸びやかな大きな泳ぎ、力強いストロークを伝えてゆきたいものだ。

水中のコースラインのゆらめきは
若い心の不確かさ
肢体にはじけた陽光は
はるかに挑む自信の賛歌
そして、プールサイドの友情は
夏草をわたる風のようにひろやかだった

ああ、あのときから僕はずっと泳いでいる
ゴールの見えないながいコースを一生懸命に泳いでいる

皆さんのご発展をいのります。

（活動報告から再掲）

役員会だより

理事長 森田恒世（1971年卒）

葉泳会の活動目的は、葉泳会会員の親睦を図るとともに、現役の援助を行うことにあります。かといって、300人を越える会員の多くが仕事を持っている状況においては、思うような活動ができないのが現状です。役員会は、こうした困難な状況の中で、最小限、組織を維持していくこと役割として、ボランティア精神で活動していくものと認識しています。役員会の活動は葉泳会の生命線で、役員会が休眠状態になると、葉泳会も休眠状態となってしまいます。

さて、平成12年度の役員会は、すでに2回開催されています。場所は2回とも、東京・千駄ヶ谷の東京体育館研修室で、徐々にここが常席となりつつあります。

第1回（4月29日開催）の議題は
平成12年度総会の開催方針
葉泳会報の発行
平成11年度決算報告
12年度予算案

第2回（6月10日開催）の議題は
平成12年度総会の開催
「葉泳会通信」の編集
現役の活動状況
でした。

2回の役員会において、議論された問題に、葉泳会の財務基盤の安定化があります。

現在、葉泳会の活動で課題となっていることとして、葉泳会が篤志家の尽力で支えられていること、現役のレベルアップに対応した援助ができていないことの2点に集約されと思います。

このたび、現役の活動報告を有償化したのは、より多くの人に現役の活動を支えてもらいたい、ということが理由です。通信のコラム欄にも案内したように、年会費に加えて活動報告代を送金願います。

また、総会後の親睦会の会費負担を低くできないかというのも議論されました。もちろん、ねらいは多くの会員に総会に出席してもらい環境を整備することです。この趣旨は、第2回役員会に出席してくれた現役主将・主務にうまく伝わり、今年の懇親会は低負担で開催できそうです。一人でも多く、葉泳会会員が総会に出席してくれることを願っています。

西千葉へ集合!!

（葉泳会総会のご案内）

日時 平成12年8月26日（土）午後1時～
場所 西千葉キャンパスプールサイド
懇親会 O・B・現役対抗戦終了後学内施設で開催

出欠は、現役あての葉書でお知らせください。

千葉大学水泳部の主将として

主将 向井田崇央

私が千葉大学水泳部の主将になることは、私の夢をかなえることでもありました。高校時代に水泳部の部長というものを形だけやらせてもらいましたものの、全て部員任せで何一つ自分ではやれなかったことを覚えています。この経験が、「もう一度やってみよう。」という気持ちが生まれるきっかけになったのだと思っています。そしてその気持ちはどんどん膨らみ、大学入学時にはすでに頭の中には自分が主将になるのだ、という気持ちがはっきりと表れていました。

しかし、当然のことながら、主将として完璧にやっていく自信などというものはほとんどなく、むしろ不安ばかりがつきまとうスタートを切ったことを覚えています。初めはただがむしゃらにやっていたのですが、最近では、シーズンに入ったということもあり、はっきりと自分自身、そして何よりも千葉大学水泳部員全員の目標をはっきりと見据えていけるようになりました。

水泳は個人競技ではありますが、大学の体育会の部活である限りは団体でのまとまりを第一に考え、部員全員が一丸となって目標に向かっていける千葉大学水泳部を目指し、自分の持てる力の全てを注いでいこうと思います。

会員近況

○佐藤弘（平成44年卒）

2ヶ月ほど前の4月8日の土曜日の夕刻、卒業以来42年ぶりに、小学校のクラス会が卒業した小松川小学校のある総武線の平井駅南口で、小料理屋、飲み屋が居並び、中には大きな松が通りに顔を見せている料亭などがあって、未だに40年前の風情をそのまま残している平井らしい、旧三業地の外れにある座敷を持った居酒屋ふうの店で開かれました。

小学校4年から6年までの3年間、同じクラスにいた男女の16名が出席しました。当時、昭和32年ごろの平井は駅前の商店街の通りこそ賑やかでしたが、人の住んでいる家なども小さく、親たちは子供に着せる服や髪にもいろいろ気を使っていたことなどが当時の写真を見るとわかります。

クラス会は一人一人が自己紹介をしてはじまりました。40年たっても皆、当時の面影どおりですが、自己紹介の中で語られた一人一人の今まではさまざまでした。

3時間ほどが瞬く間に過ぎ、終わる間際に皆で写真を1枚撮りました。42年ぶりに開かれたクラス会は日常とは乖離したおとぎ話のようです。東京の下町の小学校で小さい頃、3年間一緒にクラスのいた人たちの40年前がひと時、目の前に現れて、消えて一人一人日常に戻ってゆきます。

3年ほど前でしたか、卒業以来30年近くたって昭和46年卒業の人たちが中心になって有楽町で行われた千葉大学水泳部の当時の人達の集まりとこのたびの小学校のクラス会は、30年前または40年前を目の前に見せてくれました。

このような集まりは、年を経て行われると、ただ懐かしく楽しい日々だけでは終わらないものが残ります。

○鷹野忠洋（昭和47年卒）

昭和43年入学。学生運動の真っ只中。きっとこれが最後だから、できるだけ原始的なスポーツがいいと思って入った水泳部。トド、タコ、グズラ、ヘ男、・・・山ほどの個性の強い面々がいて、随分と楽しい水泳部でした。練習は厳しかったけど、負けたくはないし、ベストを出せば日の丸がもらえるし、・・・今の記録とは比べものになりませんが、4年間、学校を休むなど思いもよらぬ、それほど水泳（部）が学生生活の中心でした。

たまに水の中に飛び込むと、あの時の水の感触とともに仲間の顔がよみがえります。水泳という、生涯最適なスポーツに打ち込むことができたことをしみじみと思います。そのうち、70代の水泳大会でお会いしませんか。

○飯沼卓也（平成2年卒）

今を振り返って

梅雨の季節ですが、水泳部の人たちは天気になげず、練習に励んでいることでしょう。

毎年、現役の方から送付してもらう活動報告をみるたびに、年々早くなっていく記録に驚きと感嘆を感じています。

平成2年に学部を卒業しているのでかれこれ10年経過します。社会人になって数年間は暇を見つけて泳ぎにも行っていたのですが、ここ数年は仕事に追われなかなか暇をつくることができず、気がつけば1年が過ぎていく状態が続いており、この2、3年は葉泳会戦にすら顔を出すのが難しい有様でした。会社の中でもそれなりに与えられる仕事も自分の裁量で行える範囲も増えており、それに伴って責任というものも実感する機会も増える日々です。また、この2年間職場の組合活動にも少し関わっており、それはそれで会社の組織とは異なる人との関係・情報が得られる場も体験しています。

今では、年に数回ほど行っているダイビングくらいしか、「水中」を味わっていませんが、また仕事のゆとりができた時には是非プール通いを復活させたいと思っています。

近況をとということから、まとまりのない文章となりました。これを読んで「この程度で良いなら」と他の葉泳会の方々も近況報告を送付していただければ幸いです。

○池田 理（平成9年卒）

大学卒業後設計事務所に勤め、気がつけば4年目の夏を迎えようとしています。知識・経験不足から、もどかしい日を過ごすも、1年後、3年後、10年後の自身をイメージし大きな期待を胸に毎日仕事に励んでいます。

学生時代の「競泳」から、体力維持を目的とした運動のひとつにと、水泳の位置づけは変わりましたが時間をみつけてはこまめに泳いでいます。

投稿募集中

～ 掲示板 ～

会費納入のご案内

会費等の納入は以下の要領をお願いします。

- 年会費 1口 2,000円(2口以上可)
- 活動報告代 1冊 1,000円
- 送金方法
 - 銀行振込
 - 千葉興業銀行千葉支店
 - 普通預金 0187411
 - 受取人名義 千葉大学葉泳会
 - 現金書留
 - (住所 略)
 - 今田哲司 宛

記事募集中

記事募集中

住所変更をしたときは

名簿担当までお知らせください。

名簿担当 鈴木正雄

(住所 略)

葉泳会会員募集

規約にあるとおり、葉泳会の会員は「水泳部に在籍した者」となっています。途中で退部した人でも葉泳会の趣旨に賛同していただける方は会員になれます。希望者がいる場合は、理事長または名簿担当までお知らせください。

記事募集中

石川さんのホテルご案内

長年、我が水泳部のコーチをしていただいたきた石川さんが、幕張の高級ホテルで支配人をされています。高級感がたどよい、大衆的な水泳部のはるか上に行く雰囲気ではありますが、卒業してステータスと経済力を身につけた御仁は、是非ご利用ください。

ホテルフランス

〒261-0021 千葉県千葉市美浜区ひび野 2-10-2

TEL : 043-296-2111

FAX : 043-296-2120

HP : <http://www.dreamcube.com/francs/menu.html>

チェックイン : 14:00 チェックアウト : 11:00

J R 京葉線海浜幕張駅徒歩4分

駐車場 100台 1000円

レストラン、喫茶、宴会場、会議室、結婚式場

葉泳会組織

会 長	川口 俊治 (S42)	
副会長	佐藤 弘 (S44)	今田 哲司 (S45)
理事長	森田 恒世 (S46)	
理 事	西本 好男 (S46)	鈴木 正雄 (S48)
	堀 理津子 (S49)	賀来 宏和 (S52)
	長 博 (S54)	岩瀬 義行 (S58)
	佐藤 知史 (S61)	北村 伸哉 (S62)
	池内 義宏 (H元)	飯沼 卓也 (H2)
	柏木健一郎 (H5)	林 新太郎 (H8)
	金指 圭洋 (H11)	
会 計	今田 哲司 (兼)	品川 史彦 (S63)
監 事	服部 哲士 (S34)	都築 直樹 (S38)

葉泳会連絡網

服部 哲士	34年卒	鈴木 明
	35年卒	高柳 弘泰
	36年卒	塩沢 健児
	37年卒	都築 直樹
今田 哲司	38年卒	桑原 章輔
	39年卒	小竹 敏雄
	40年卒	村山 勇六
鈴木 正雄	41年卒	小管 昭
	42年卒	荻原 洋章
	43年卒	深田 一弘
西本 好男	44年卒	佐藤 弘
	45年卒	多田 昌宏
	46年卒	森田 恒世
	47年卒	鷹野 忠洋
堀 理津子	48年卒	谷口 徹
	49年卒	原田 忠禮
	50年卒	石崎 弘文
賀来 宏和	51年卒	仲 徹
	52年卒	大野 亮
	53年卒	大橋 泰久
長 博	54年卒	山貝 広海
	55年卒	常岡 誠
岩瀬 義行	56年卒	本多 信三
	57年卒	小沢 修
佐藤 知史	58年卒	岩瀬 義行
	59年卒	菊井 伸介
北村 伸哉	60年卒	濱 浩一
	61年卒	原田 文明
品川 史彦	62年卒	加藤 清一
	63年卒	品川 史彦
池内 義宏	元年卒	池内 義宏
	2年卒	後野 和弘
飯沼 卓也	3年卒	尾上 健二
	4年卒	池田 明
柏木健一郎	5年卒	柏木健一郎
	6年卒	熊谷 正明
林 新太郎	7年卒	岩佐 崇史
	8年卒	影井研一郎
金指 圭洋	9年卒	池田 理
	10年卒	前島 順
	11年卒	金指 圭洋
	12年卒	高橋 和也

葉泳会の連絡は、上記の方をキーパーソンとして郵便・電話で行います。ご協力をお願いします。(役員から会員に直接連絡することもあります。)

葉泳会連絡先

会 長	川口俊治 (略)
理事長	森田恒世 (略)
名簿担当	鈴木正雄 (略)

住所不明者

以下の方々の住所が不明です。知っている方は名簿担当までお知らせください。

卒年	会員 (敬称略)
36年	大崎
39年	佐藤, 安原
40年	水野
41年	田中
44年	川辺
51年	岡本, 田中
54年	目沢
55年	伊藤和行, 伊藤裕子
57年	塚本
58年	久住, 和田
60年	伊関, 白井, 栢森
元年	大埜, 沼田
7年	古屋

～ 編集後記 ～

懸案となっていた「葉泳会通信」をようやく創刊することができました。大学の所属が学部ではなく水泳部といえるほど水泳に没頭した人でも、社会に出ると水泳と縁遠くなってしまいがちです。水につからなくとも、「葉泳会通信」を読んでいただき、泳いだ気分になっていただければ幸いです。

編集者としては、パソコンソフトを駆使して、創刊号にふさわしいレイアウトでまとめようと意気込んでいたのですが、適当なソフトがなく、ワープロソフトでの作成となってしまいました。これは第2号の編集担当に託したいと思います(とはいっても私が編集担当を継続しそうですが・・・)。

本誌は、会員のコミュニケーションを計ることを目的にしており、会員の皆さんからの寄稿なくしては、発行できません。今回、会長を始め、何人かの会員のご寄稿により編集できました。次号におきましても、積極的なご寄稿をお願いします。

「葉泳会通信」は毎年今頃に発行する予定です。「掲示板」に掲載したい記事がありましたら、5月頃までに原稿案をお寄せください。(鈴木 記)